

平成30年6月27日現在

機関番号：24402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2017

課題番号：16K13186

研究課題名(和文) アートとマイノリティ - LGBTの権利獲得運動へのアートの役割

研究課題名(英文) Art and minority; role of art for rights acquisition movement of LGBT

研究代表者

中川 眞 (Nakagawa, Shin)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特任教授

研究者番号：40135637

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日本における「アートとアクティビズムの関係」についてアメリカ合衆国の事例との比較を通して検討するものである。2016年にニューヨークにおいて、2017年にサンフランシスコにおいて現地調査を実施した。アーティストと活動家の関係が、お互いにメリットのある、キャリアアップにつながる関係になっていることが明らかとなった。これは日本ではこれまでに語れていない論点であり、新たな協働の要素を確認することとなった。また、運動の歴史に関する資料の収集や分類、公開の重要性(アーカイブ)、ならびに歴史に根差した運動を展開することの重要性(歴史修正主義の拒否)が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study examines the "relationship between art and activism" in Japan through comparison with the case in the United States. Field surveys were conducted in New York in 2016 and in San Francisco in 2017. It became clear that the relationship between artists and activists is a relationship that has mutual benefits and leads to career improvement. This is an issue, which has not been talked about in Japan. The elements of new collaboration have been confirmed. It also reveals the importance of developing and classifying the data on the history of exercise, the importance of the disclosure (archiving), and the development of the history-based movement (rejection of historical revisionism).

研究分野：アーツマネジメント

キーワード：LGBT(セクシュアルマイノリティ) 人権擁護運動 正確な歴史の継承 アーカイブ アクティヴィスト 社会包摂型アート

1. 研究開始当初の背景

本研究はアートとアクティビズムの関係について検討するものである。LGBTの権利運動の先進国であるアメリカ合衆国では、ストーンウォール事件(1969)やエイズ危機とそれへの対抗運動「Act Up」(1980~96)、若年LGBTの相次ぐ自殺をきっかけに立ち上がったIt gets better Project(2010~)等とともに語られる。そこではジュディ・ガーランド(ストーンウォール)、キース・ヘリング(「Act Up」)、アンディ・ウォーホル(同)、ラリー・クレイマー(同)、ジャネット・ジャクソン(「It gets better」)やレディ・ガガ(同)といった表現者との協働が常にあり、相互の影響関係は極めて強いものであった。このような差別事件に対する市民社会の応答の在り方は、欧米と日本では明らかに異なる。欧米ではLGBTの人権擁護運動や差別に対する異議申し立ては常にアーティストとの協働で進んできた。一方、日本ではそのような事例は少ない。この理由はどこにあるのだろうか。以上が社会的背景である。

研究面においては社会包摂型あるいは社会関与型のアートに関する議論がこの20年の間に徐々に進展を見せている。N.プリオの『関係性の美学』(1998)、C.ピショップによるプリオ批判、そして直近のP.エルゲラ『社会関与型アート入門』(2011)でのソーシャル・プラクティス論は、市場原理主義的社会の閉塞感をアートによって穿つ戦略に詳しい。しかしプリオとピショップの議論は「調停」対「敵対主義」というアートの形式論に陥っている点で従来の芸術批評や芸術学的土俵から大きく逸脱するものではなく、あくまでも現代アートの文脈内で有効なものであり、現実の社会問題への訴求は背後に退いている。エルゲラの観点は、社会領域へのアートの援用を強く打ち出しているが、被排除の側から丁寧にアート活動を読み解くものではない。また創造都市論からはR.フロリダがポヘミアン=ゲイ指数という視点を打ち出し、創造都市形成の鍵となる要因として提起したが、そこで語られるポヘミアンあるいはゲイのイメージが極めてステレオタイプである点、要注意である。いずれにおいてもLGBT問題への取り組みは僅かである。

このような研究動向のなかで、本科研代表者と分担者は社会的排除の現場に身を置き、問題群に肉薄するための視座、接近方法、言説解釈、問題解決策など、理論的な考察から極めて実践的な提言に至るまで、臨場的な態度で成果を世に問うてきた(中川真『これからのアートマネジメント - ソーシャルシアへの道』[2011]、『アートの力』[2013]、山田創平『都市と言説 - HIV感染対策への言説研究の応用』[2008]、『ジェンダーと自由 - 理論、リベラリズム、クイア』[2013共著])。以上のような予備的考察を経て、未だ殆ど研究の進んでいないLGBTとアートの関連についての研究に、本科研は取り組

んできた。

2. 研究の目的

本研究は「アートによる社会的包摂」の可能性、とりわけ性的少数者(LGBT)とアート/表現との関連を、事例に基づいて明らかにするとともに、実践への効果的なフィードバックの道筋を提示することを目的とする。具体的には、現在の日本社会においてLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとったセクシュアル・マイノリティを表す言葉で、性の多様性を示す)が置かれている社会的排除の実態をつまびらかにするとともに、その状況に対するアート/表現のかかわりの実態と今後の可能性について詳解することを通して、我が国においては未発の当該研究の基盤形成を急ぐものである。特にアメリカ合衆国の事例と日本の事例を比較検討することにより、アートとアクティビズムの関係を実証的に検討することに焦点をあてている。

3. 研究の方法

本補助金における研究事業の研究方法はインタビューとフィールドワークである。以下、順を追って研究の方法とその内容を説明する。まず2016年9月にニューヨークで調査を行った。現地で1980年代から現在に至るまでHIV/AIDS、LGBTの権利運動を展開したACT UPのミーティングを取材した。またACT UPの活動を記録した映画「怒りを力に - アクトアップの歴史」を制作したサラ・シュールマン(ニューヨーク市立大学教授)と面会した他、アジアカタリストのディレクターであるカリン・カプラン、またニューヨーク市立大学LGBTQ研究センターディレクターのケヴィン・ナダルを取材した。2017年にはアメリカ合衆国サンフランシスコ市で現地調査を実施した。特に2017年の調査ではカリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)公衆衛生学教室をフィールドワークの拠点とできたことが研究の進展に大きく寄与した。当校では鬼塚直樹UCSF研究員の仲介により、アメリカ合衆国での同性結婚制度制定に多大な影響を及ぼしたとされるスチュワート・ガフニー氏(UCSF研究員)とその配偶者であるジョン・ルイス氏(弁護士)に対してインタビューを実施した。またエイミー・スエヨシ氏(サンフランシスコ州立大学准教授)、リー・カラハン氏(日本文化研究者)に対してもインタビューを実施した。リー・カラハン氏にはカストロストリートのフィールドワークにも同行を依頼した。その他、複数の現地NGOを訪問した。

4. 研究成果

これらのインタビューデータ、またフィールドワークの結果、日米の違いとして以下の研究成果を得た。まず2016年のニューヨークでの調査では、アーティストと活動家の関係が、お互いにメリットのある、キャリアア

ップにつながる関係になっていることが明らかになった。アクティビズムに参加することで、アーティストは成熟したアーティストへと成長し、新たなテーマを獲得する。また活動家はアーティストが提供する美しいビジュアルや新しい表現を通して、活動に対する新たな価値観や見方を獲得する。いまひとつはアメリカのフリースピーチ、民主制の原則の強い影響が確認された。

2017年のサンフランシスコでの調査では、サンフランシスコ市におけるアートとアクティビズムの関係（特にLGBTに関する）について、まず「運動の歴史に関する資料の収集や分類、公開の重要性（アーカイブ）」また「歴史に根差した運動を展開することの重要性（歴史修正主義の拒否）」が確認できた。

またこれらの調査を通して、さまざまなステークホルダーや関係者と研究に必要なネットワークを構築できたことも大きな研究成果である。2017年の調査では、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）を拠点とし、当該研究課題と関係の深いステークホルダーと連絡関係を構築することができた。当校では鬼塚直樹 UCSF 研究員の仲介により、アメリカ合衆国での同性結婚制度制定に多大な影響を及ぼしたとされるスチュワート・ガフニー氏（UCSF 研究員）とその配偶者であるジョン・ルイス氏（弁護士）に対してインタビューを実施した。またルイス氏はその2か月後に大阪を訪れ、同性婚に関して市民向けの講演を行ったが、その際にはこの時に築かれた関係をもとに、山田が指定討論者を務めた。他に、エイミー・スエヨシ氏（サンフランシスコ州立大学准教授）には、サンフランシスコ GLBT 博物館で取材に応じて頂き、エイミー氏の研究テーマであるアメリカでの日系人 LGBT コミュニティの歴史、特にヨネ・ノグチ（野口米、イサムノグチの父）についての研究成果をヒアリングした。またリー・カラハン氏（日本文化研究者）にはサンフランシスコ市カストロストリートのフィールドワークに同行を求め、また現地の NGO 「Bob Ross LGBT Senior Center」を紹介して頂いた。この施設は主にセクシュアルマイノリティが入居する高齢者施設であるが、サンフランシスコ市におけるジェントリフィケーション、LGBT と新自由主義との関係を考えるうえで重要な場所であった。

今回、取材した人物のうち、スチュワート・ガフニー氏（UCSF 研究員）、エイミー・スエヨシ氏（サンフランシスコ州立大学准教授）、またエイミー氏の研究対象であるヨネ・ノグチ（野口米、イサムノグチの父）はいずれもアジア系アメリカ人である。本研究では当該研究テーマのアジア地域での状況もその関心領域となっているが、アメリカでのフィールドワークを通して、その基盤的情報を得ることができた。

また 2016 年のニューヨークでの調査結果は、江之子島文化芸術創造センター（enoco）

において、市民向け公開研究会「LGBT の人権擁護運動におけるアートとアクティビズムの関係について アメリカと日本の比較研究 Relationship between Artistic Activity and Activism for LGBT Human Rights: Focusing on the Difference between Japan and the US」を実施することで広く市民と共有した。日本社会において、これらの情報を市民と共有することができた点も重要な研究成果であったと考える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件査読無）

山田創平「セクシュアルマイノリティと芸術表現・アイデンティティ、アウトティング、そして合意と表明をめぐる諸問題」(『文化芸術を通じた社会包摂に関する事例調査報告書』) 東山 アーティスト・プレイメント・サービス (HAPS)、2018

中川眞「アジアを視野に入れた社会包摂型アーツマネジメントの形成に向けて」(阿部昌樹他(編)『包摂都市のレジリエンス』) 水曜社、2017: 99-110

〔学会発表〕（計 6 件）

Shin Nakagawa ; Contesting Social Space in Urban Context: Toward the Third Space, 16th Urban Research Forum, 2018.3.15, Yogyakarta.

Sohei Yamada; Relationship between Artistic Activity and Activism for LGBT Human Rights in Japan. Focusing on the Collaboration between the Kyoto City Government and Citizens, The Urban Research Plaza 's 16th Urban Culture Forum, 2018.3.7, Bangkok, Thailand.

Shin Nakagawa ; The Role of Universities in Urban Community Regeneration, 3rd Conference of Inter-university Center, 2017.9.18, Dubrovnik.

Shin Nakagawa ; Social Space and Ethics, 15th Urban Culture Research Forum, 2017.3.7, Bangkok.

Sohei Yamada (山田創平) ; Relationship between artistic activity and activism for LGBT human rights - Focusing on the difference between Japan and the US, 15th Urban Research Plaza Forum 2017 「Urban Resilience: Voicing 'Others' through Art and Culture, 2017.2.22, Yogyakarta, Indonesia.

Shin Nakagawa (中川眞) ; Socially inclusive arts management in Japan, 11th International Conference of Asian Arts Management, 2016.12.7, Yangon.

〔図書〕(計0件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中川 眞 (Nakagawa Shin)
大阪市立大学・都市研究プラザ・特任教授
研究者番号：40135637

(2) 研究分担者

山田 創平 (Yamada Sohei)
京都精華大学・人文学部・准教授
研究者番号：30554315

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者